



技術者から大学教員への転身

企業経験が豊富な先生にお願いしたいと今回の執筆のお話を頂きました。自分自身のキャリアを振り返るよい機会と思い、これまでの歩みと現状を執筆させていただきます。

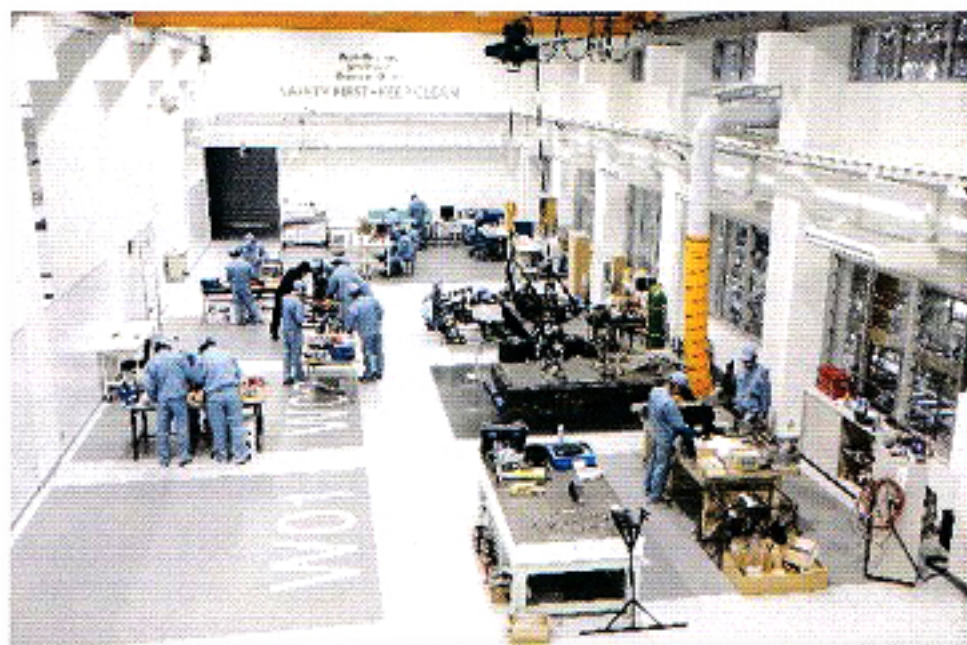
私が技術に関して興味を持ったのは父の影響が大きかったと思います。父は民間企業の技術者を脱サラして個人で電気工事業を営んでいました。そのため、私は幼いころよりさまざまな工具に囲まれて育ち、工作も趣味というよりは生活の一部のような感じで身に付いていました。高校進学の際も、技術が好きという単純な理由で電子工学の道に進みました。大学への進学は、技術をもっと深く勉強したいというのは立て前で、就職したくなかったと記憶しています。しかし、実際に大学で電子工学を学ぶと技術に対する興味がより深まり、研究開発職へのあこがれが出てきました。学部卒業のときはバブル崩壊後の就職難の時代であり、研究への興味と就活からの逃避のため修士課程への進学を決めました。修士課程までは、ずっと電子工学を専攻していましたが、電子工学を活かせる研究開発職を探したのですが、景気はさらに悪化しており思うようには進みませんでした。仕方なく、当時の指導教授の推薦もあり半導体分野へ進むことになりました。

修士課程修了後、京都に拠点を置くTOWA(株)という半導体製造装置メーカーへ就職しました。この会社は半導体パッケージを製造するモールドング装置と超精密金型を製造販売する機械メーカーであり、特に微細加工技術を得意としています。しかし、私は金型や樹脂成形のことは全く知らず、機械についても素人でした。今振り返ると、就職時に深く考えなかったことが、電子工学から機械工学への進路変更になったと思います。入社後は希望する研究開発の部署へ配属して頂き、機械工学の技術者としての道がスタートしました。新たに機械工学をメーカーで直接学ぶことができる貴重な経験でした。若手でも責任ある研究開発テーマを任せてもらえ、また、上司や先輩方から直接指導を頂き、大学で学ぶのとは違った形で実践力のある機械工学の技術者として成長することができたと思います。さまざまなテーマに取り組む中で、産学連携に力を入れるようになり、半導体デバイスの特殊加工技術について、岡山大学と長期間共同研究に取り組みました。その時、ご指導を頂きました先生の推薦と会社の支援もあり、社会人ドクターとして2011年3月に博士の学位を頂くことができました。再び振り返る

と、このとき技術者から研究者への進路変更が始まったと思います。

博士の学位取得後は、研究者として自立して社会貢献したい、後生の育成に力を入れてみたいという気持ちが強くなり、20年間お世話になったTOWAを退職して、現職の崇城大学へ移ることになりました。2016年4月に長年の民間企業の技術者から大学教員への転身となりましたが、会社のさまざまな環境が私を支えていたのだと改めて実感しています。また、大学では自分自身の実力が試され、教育と研究を通じてさらなる成長と新たなチャレンジができる場であると感じています。大学へ異動したときは苦勞が多かったのですが、今はそれが楽しみに変わってきています。これまでの経験と知識を活かして、将来が期待される学生諸君と共に研究室の立上げに力を注いでいる毎日です。崇城大学にはものづくり創造センター(写真参照)と呼ばれる加工に関する設備環境が揃っており、レーザー加工機などを利用して加工技術に関する研究に取り組んでいます。

私のキャリアを振り返り、今の自分があるのはこれまでご指導頂きました大学の先生方ならびにTOWAの皆様のお陰であり感謝しております。また、一市民として、熊本地震にご支援頂きました皆様に心より御礼申し上げます。



崇城大学ものづくり創造センター



<正員>

北田 良二

◎ 崇城大学 工学部機械工学科 准教授

◎ 専門：特殊加工、表面処理、砥粒加工 など